

淀川水系流域委員会殿

(丹生ダム・異常渇水対策容量)

「河川管理者失格回答」の意味するもの

平成20年1月6日

「関西のダムと水道を考える会」

(代表) 野村東洋夫

私達は河川管理者に次の質問をしました(受付番号1438)。

“私達も河川環境を大事にすべきとは勿論考えておりますが、ただこのシミュレーションの対象は60年確率の異常渇水ですから、このような非常事態においては「人間優先」とせざるを得ず、河川水の使用優先順位は次のようにすべきと考えますが、如何でしょうか？

1) 上水      2) 工水・農水      3) 維持用水 ”

これに対する河川管理者の回答は次の通りです。(アンダーラインは当会)

“既往最大渇水というのは、結果として既往最大であったことが分かるのであり、渇水の初期あるいは渇水が進行する過程で、その渇水が既往最大規模の渇水となるので普通の渇水とは異なる非常事態として対応する、ということが出来るものではありません。

ご質問の「上水」は日常生活に、「工水・農水」は社会経済活動に、「維持用水」は生態系維持等の河川の機能のために、それぞれ必要なものです。上記のような状況において、使用に優先順位をつけることはできないと思われます。”

この回答は私達の質問に正面から答えていません。額面通りに受け取るなら、「河川管理者失格」と言うべきシロモノです。

問題は、彼らが敢えてこのようなナンセンスな回答をしてまで守ろうとしているものが何かですが、それが「維持流量カット」であることは明らかです。即ち、異常渇水において昭和59年～60年渇水レベルの維持流量カットをもし認めれば、彼等のシミュレーションにおける琵琶湖水位低下がBSL-1.4m程度で止ってしまうからであり、私達の意見書(No.889)が指摘するように、彼らが丹生ダム異常渇水対策容量の論拠を失うからです。

これからの委員会において「維持流量」問題が充分審議されることを私達は強く要望します。

(以上)